

**ああっチンポの神さま!**

チンポが欲しすぎて  
神頼みしたらチンポの神様が  
触手チンポで  
ハメハメしてきました

「お前に奉仕しているチンポも  
ここに生えているチンポも  
全て私のチンポだ」

「♡♡♡来オオオオオオ♡♡♡」

**触手チンポ**

\*プロローグ

(なんでえ！？こどこ！？俺、さっき自分の部屋で寝てたはずなのに…！)

アリトは暗闇を走っていた。後ろからは無数の触手のようなものが俺に向かってくる。違う、あれは触手なんかじゃない！チンポだ！

「あっ！？♡」

にゆるりとその一つがアリトの股間に忍びよって来た。アリトの腰にまとわりついたかと思えば、ズボンの中をすり抜けて、パンツの中に侵入して、アリトのチンポと触手チンポの先が当たった。

コツン♡シュリシュリ…♡

「あっ♡あっ♡はうっ♡うあっ♡そこっ♡それっ♡先っ  
ちよ、しゅりしゅりするのダメえ♡」

ちゅぷちゅぷっ♡

「あっ♡おちんぼ濡れてる♡俺のチンポに濡れ濡れチ  
ンポが沢山…♡」

沢山の触手チンポがアリのズボンの隙間から入  
ってくる。アリの口にも少しだけ入ってきて、嬉し  
そうにチンポがぬぷぬぷと揺れた。

ちゅっ♡じゅぷじゅぷ♡じゅぷ♡じゅぷぷっ♡♡♡

触手チンポはアリの上着にもスルリと入って  
くると、乳首の先をちょいちょいとチンコの先で擦って  
くる。

コリコリッ♡ちょこちょこっ♡

「ホッ♡おっ♡おおんっ♡乳首だめえ♡俺、そこっ♡弱いのお♡」

乳首の先だけ何度も優しく愛撫されて、アリトは興奮で下が濡れてきた。チンポの先に当たる触手チンポも優しくアリトのチンポを擦るだけで、決定的な刺激が足りない。

(そんなに優しい刺激じゃ全然イけない…！♡もっと激しく動いて欲しい♡)

「っ♡くっ♡うっ…♡っっ♡」

アリトのチンポの先からチロチロと先走りが滴る。お尻が切なさでキュウキュウしている。

(どうして、こんなことになってるんだろう。俺、確か今日は神社に行って……)

アリトは寝る前にしていたことを思い出した。

#### \*おちんぼ神社

日本の各地にチンポが祀られている神社があるのをご存知だろうか。アリトは興味半分、下心半分でその神社を参っていた。というのも。

(なんか最近、ディルドじゃイけなくなってきちゃったんです！お願いします！神様！どうか神社に祀られてるような太くて大きなチンポで俺の尻の穴をガンガン突いて下さい！俺、ゲイじゃないから、そういうお店とかにはいけないし、でもチンポが欲しくて欲しくてたまらないんです！)

そんなお願いをした矢先だった。まさか寝入った途  
端に、チンポに追いかけられる夢を見るなんて、どう  
いうこと…！？

\*夢の中で♡

「あっ！？♡」

にゆるりと太くて逞しいチンポがズボンの隙間か  
ら幾つも入って来た。パンツは沢山のチンポでパンパ  
ンに膨れ上がっていた。

「嘘ッ♡地面からチンポが次々に生えてくるう♡もう  
パンツ入りきらないよお♡」

チンポは至るところから生えてきていた。暗闇から  
無数に伸びるチンポは、アリの体に巻き付くと怪し